



## 地域を愛する心

今年もこの時期には、地域の会合が目白押しです。スポーツ協議会から始まり、コミセン総会やまちづくりの会総会、青少年協議会、安全協会、社会福祉協議会・・・etc. それらの集まりに行くと必ず挨拶を依頼され、そこここに応じた挨拶をしますが、本当に学校のことを大切にそして信頼いただいていることを実感しています。以前も書きましたが、子供たちは家庭で育ち、学校で学び、地域で



成長します。地域で育った子供たちはいずれは地域から離れて行きますが、大人になってまた地域に戻って来て活躍する人、また別の地域で活躍する人も出てくることでしょう。

地域における連帯感や人間関係の希薄化が進む等、子供を取り巻く環境は実に大きく変化しています。それに伴って、地域社会や家庭における教育力の低下が一層懸念されるようになってきました。大切なのはこの地域で生まれた子供たちの経験が、大人になったときに地域に還元されていくということです。帯西の地域が学校・子供たちを真ん中に据えて取り組んでくださっているということが、子供たちが社会に適応する力となっています。そして、学校で育てている自己有用感が、地域にまで広がり、地域よりよくしていくのです。この正のスパイラルが地域全体の活力を育み、未来の地域社会を担う人材の育成に繋がり、さらに持続可能な地域社会の実現を可能としていくと考えます。

学校でも子供の主体的な地域活動への参画意識を生活科や総合的な学習の時間、そして道徳科などで育てていこうと思っています。そして、一生涯ふるさとを愛する心の基盤を築いていき、帯西イエローの心(低:わたしの町が大好き、中:ふるさとの伝統と文化を大切に、高:国や郷土を愛する)を育てていきたいと思っています。

昨年度のおびにし祭の際に、コミセンでとっても美味しいおはぎをいただきました。それは本当に美味しく小豆の上品な甘さが口の中に広がりました。私がいかに美味しい表情をしていたからでしょうか、先日のコミセン総会に顔を出すと、そのおはぎのプレゼントがありました。美味しいおはぎを食べながら、地域の愛を感じ、私自身に帯西校区を愛する心が醸成されていることを再確認しました。地域の皆様、今後とも帯西の子供たち・職員をどうぞよろしく願いいたします。



## イチゴの日

いちごの日は、1月15日(いい・いち・ご)とされていますが、毎月15日もイチゴの日とされています。このイチゴですが、日本で食べられるようになったのは、江戸時代末期の1830年代といわれています。オランダ船によって持ち込まれたのが始まりです。いちごは、どの部分が果実か知っていますか?じつは、表面にあるツブツブが果実なんです。それぞれのツブツブの中に種が入っています。一粒のいちごは、200個から300個の果実が集まった「集合果」なのです。私たちが果実だと思って食べている甘い部分は、実際は茎の先端の花床(かしょう)が膨らんだもので「偽果(ぎか)」と呼ばれます。園芸学では、草本性であるいちごは“野菜”に分類されます。ただし、実際は果物と同じように食べられていることから「果実的野菜」とも呼ばれています。因みに毎月22日はショートケーキの日です。その理由はカレンダーにあります。近くのカレンダーを見てください。22は、いつも15(いち・ご)を乗せていますよね。

